

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Orange西延末			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 22日 ~ 2026年 1月 9日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数)	37
○従業者評価実施期間	2025年 12月 22日 ~ 2026年 1月 9日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 23日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童一人ひとりの特性や発達段階に応じて、個別支援計画を作成し、計画に沿った支援を実施しています。保護者のニーズや児童の状況を踏まえながら、活動内容や関わり方を調整し、見通しを持って安心して過ごせるよう支援を行っています。これにより、児童が自分のベースで取り組み、成長につながる経験を積めるよう配慮しています。	日々の支援の中で児童の様子を丁寧に観察し、状態や気持ちに応じた支援方法を検討しています。記録や支援計画の内容は職員間で共有し、支援の方向性が統一されるよう努めています。また、活動の手順やルールを分かりやすく示すなど、児童が安心して参加できる環境づくりを意識しています。	定期的なモニタリングやケース会議等を通じて、支援計画の内容を適宜見直し、より質の高い個別支援計画の作成につなげていきます。併せて、職員間の共有方法を継続して工夫し、児童の変化やニーズを支援内容に反映できる体制を整えていきます。
2	保護者との日常的なやり取りを大切にし、児童の状況や活動の様子について、できるだけ分かりやすく共有することを心掛けています。面談等を通じて家庭での様子や困りごとも把握し、家庭と事業所が共通理解のもとで児童を支えられるよう連携を図っています。これにより、保護者が安心して相談できる關係づくりにつながっています。	連絡帳や送迎時の申し送り、面談機会を活用し、日々の児童の様子や支援のねらいを保護者に伝えるよう努めています。保護者からの相談や申入れについては、管理者・児童発達支援管理責任者を中心に状況を把握し、必要に応じて職員間で共有しながら対応できるよう体制を整えています。	ICTの活用や面談機会の確保など、情報共有の方法をさらに工夫し、保護者にとって分かりやすい発信を継続していきます。相談窓口や対応の流れについても周知を行い、職員間の連携を強化することで、より安心して相談いただける体制づくりを進めます。
3	生活空間について、清潔で心地よく過ごせる環境を維持し、児童が落ち着いて活動できるよう配慮しています。活動内容に応じて空間を整え、児童が見通しを持って過ごせるよう環境構成を工夫しています。こうした環境整備により、安心感をもって通所しやすい基盤づくりにつながっています。	室内環境の整理整頓や清掃を日常的に実行し、児童が安全に過ごせるよう備品配置や動線にも配慮しています。活動の流れが分かりやすいよう、教材や掲示物の配置を工夫し、児童が安心して参加できる環境づくりを継続しています。	障害特性に応じた環境構成や教材配置の工夫をさらに進め、より分かりやすく安心できる環境づくりを行います。活動内容の幅を持たせながら、児童が主体的に取り組める場面を増やすよう、環境面からも支援の充実を図ります。

	事業所の弱み（※）だと思われる事 ※事業所の課題や改善が必要だと思われる事	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者からのご意見等を踏まえると、関わり方や説明の仕方などについて、職員間でより共通理解を深める必要があると認識しています。児童への関わりや保護者対応について、一定の水準で実施できるよう、支援の考え方や対応方法を整理し、共有を進めていくことが課題です。	職員の経験年数や得意分野の違いにより、同じ場面でも対応の仕方に差が出ることがあります。また、支援の意図や声かけの基準が十分に言語化されていない部分があり、結果として保護者から見た際にはらつきとして感じられる可能性があると考えています。	支援の基本姿勢や保護者対応について、研修やケース共有の機会を設け、対応のポイントを整理していきます。管理者・児童発達支援管理責任者を中心に、日常的な振り返りを行なう、職員間で共通理解を深め、支援の質の均一化を図ります。
2	一部の保護者から、送迎の遅れ等に関するご不安の声があり、送迎時の安全確保について、より確実な確認体制を整える必要があると認識しています。児童の安全に直結する業務であるため、運用面の見直しを継続して行うことが課題です。	送迎業務は複数職員で対応するため、情報共有のタイミングや確認方法が十分に統一されていない場面が生じる可能性があります。また、急な変更や当日の連絡事項が重なる場合に、確認が複雑化しやすいことも要因として考えています。	送迎時の確認手順（利用予定・時間・ルート・引き渡し）を整理し、チェック体制を強化します。運用上はダブルチェックを基本とし、連絡ツール等を活用して当日の変更点が確実に共有される仕組みを整えます。万一对立が生じた場合も、状況説明と再発防止策の共有を徹底します。
3	アンケート結果から、家族支援プログラムや保護者同士の交流機会、兄弟支援等について、実施の充実が期待されていることがうかがえます。日常支援を行う中で、保護者支援の機会をどのように確保していくかが今後の課題です。	保護者の就労状況や家庭の事情により参加しやすい時間帯が異なること、また運営面での準備や人員配置の調整が必要となることから、継続的な実施方法について検討が必要な状況があります。	まずは情報提供（通信・資料配布・ミニ講座等）など、実施しやすい形から段階的に取り組みを進めます。保護者会や交流の場についても、ニーズを把握しながら小規模・短時間で実施可能な形を検討し、家族支援の充実につなげていきます。

保護者等からの事業所評価の集計結果								
事業所名		orange西延末						
				公表日		2026年1月23日		
				利用児童数		45		回収数
環境・体制整備	1	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
	2	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	92.1%	2.6%	0.0%	5.3%		
	3	職員の配置数は適切であると思いますか。	78.9%	2.6%	0.0%	18.4%		
	4	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	88.6%	0.0%	0.0%	11.4%		
適切な支援の提供	5	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	91.7%	2.6%	0.0%	5.7%		
	6	こどものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	86.8%	10.5%	0.0%	2.6%		
	7	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	92.1%	5.3%	0.0%	2.6%		
	8	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	97.4%	2.6%	0.0%	0.0%		
	9	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	94.8%	2.6%	0.0%	2.6%		
	10	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	11	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	28.9%	18.4%	18.4%	34.2%		
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	97.4%	0.0%	0.0%	2.6%		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	94.7%	2.6%	0.0%	2.6%		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	39.5%	15.8%	18.4%	26.3%		
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	94.7%	5.3%	0.0%	2.6%		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	97.3%	2.6%	0.0%	2.6%		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされているだと思いますか。	92.1%	5.3%	0.0%	2.6%	職員さんによりけりなところがある。	定期的な職員研修やケース共有を通じて、対応の質の均一化を図ります。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	13.2%	15.8%	31.6%	39.5%		
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	94.7%	2.6%	2.6%	2.6%	職員さんによりけりなところがある。	・相談・申入れについては、必ず管理者または児童発達支援管理責任者が把握・対応する体制を明確化します。 ・職員間で情報のルール（報告・連絡・相談）を再設定します。

	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思われますか。	94.7%	5.3%	0.0%	2.6%		
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	88.7%	0.0%	2.6%	8.6%		
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	94.8%	2.6%	0.0%	2.6%		
非常時等の対応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	92.1%	5.3%	0.0%	2.6%		
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	92.1%	2.6%	0.0%	5.3%		
	25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	92.1%	5.3%	0.0%	5.3%		
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	91.7%	2.6%	0.0%	5.3%	小さな怪我の場合は、連絡帳に書かれて いる。	軽微な怪我であっても、必要に応じて口頭説明を行うなど、保護者の安心につながる対応を心がけます。
満足度	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	94.7%	0.0%	2.6%	2.6%		
	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	91.7%	5.7%	0.0%	2.6%		
	29 事業所の支援に満足していますか。	94.7%	2.6%	0.0%	2.6%	時折、送迎忘れや遅れがあり、子どもの 安全が心配になる。	送迎に関するトラブルが発生した際は、 速やかに状況説明と再発防止策を保護者 に伝えます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	Orange西延末				公表日 2026年 1月 23日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法定基準を大きく上回る十分な活動スペースを確保し、安全かつ落ち着いて過ごせる環境を整備しています。保護者および職員からも高い評価を得ています。	引き続き環境整備を進め、安心・安全な利用環境の維持および質の向上に努めていきます。
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		通常配置を大きく上回る人員体制を確保し、児童の特性に応じた柔軟な支援が可能な体制を構築しています。	今後も必要に応じて体制の見直しを行い、適切な人員配置の維持と支援の質の確保に努めます。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		静養室・調理室・学習室等、目的に応じた専用スペースを整備し、安全かつ適切に使用できる環境を整えています。	視覚的配慮、バリアフリー化及び安全動線のさらなる整備を進め、利用しやすい環境づくりを推進します。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		日常的な接触箇所の消毒等、衛生管理体制を徹底し、安心して利用できる環境の維持に努めています。	衛生面については点検体制及び清掃頻度の見直しを行い、より高い水準での衛生管理を継続します。
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		静養環境や多目的室を活用し、個別支援及び集団活動双方に対応可能な支援体制を整えています。	個々のニーズに応じた対応として、個別の部屋の使用を一層充実させ、安心して参加できる支援環境の維持に努めます。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		定期的な会議により支援計画の振り返りと見直しを行い、日常支援へ反映しています。	PDCA等の手法を活用し、引き続き支援の質的向上に努めます。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		匿名性に配慮したアンケート回収を行い、いただいた意見を適切に把握し改善へ反映しています。	引き続き意見収集方法の工夫を行い、実態把握の精度向上に努めます。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		面談や情報共有ツールを活用し、職員の意見を積極的に運営へ反映しています。	職員が意見を出しやすい環境づくりを継続し、組織的な改善につなげていきます。
	9 第第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	△		日頃より他事業所や関係機関との情報交換を行い、法令遵守や支援内容の妥当性について確認する機会を設けています。また、自己評価結果を職員間で共有し、運営改善に活かしています。	今後は第三者による外部評価の導入について具体的に検討し、より客観的な視点を取り入れた運営改善につなげていく必要があります。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修および法人内研修を計画的に実施し、職員の資質向上を図っています。	施設内の好事例共有やテーマ別研修など、研修体制のさらなる充実を図ります。
適応	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを整備し、内容確認後ホームページにて公表しています。	単なる公表にとどめず、常時確認・振り返りが可能な体制を維持します。
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		アセスメントの実施、職員間での共有及び保護者同意を経たうえで、計画作成を行っています。作成した計画については全職員で共有し、共通理解のもと支援を実施しています。	現行の適切な手続きを継続し、丁寧な計画作成を維持していきます。引き続き共有体制の徹底を図り、適切な運用を継続します。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		定期会議や個別支援検討の場を設け、児童発達支援管理責任者だけでなく現場職員も参画する形で計画内容を協議し、共通理解のもと支援方針を整理しています。	より客観的な視点や専門的知見も取り入れられるよう、外部研修や情報共有の機会を継続しつつ、計画検討体制の質的向上を図ります。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員への共有と計画通りの支援を進めています	計画通りの支援が提供できるようつとめています
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化検査や観察記録等、多角的手法により児童の状況把握に努めています。	児童の特性に応じた適切な評価手法の検討を継続します。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		計画作成時にはガイドラインの4つの支援領域をチェック項目として用い、アセスメント結果や保護者の意向を踏まえながら、本人・家族・移行・地域の各観点を計画内に位置づけるよう努めています。	現状の計画を振り返り、4つの支援領域のうち不足や偏りがないかを定期的に確認し、より具体的で評価しやすい目標設定や支援内容の記載方法について、職員研修等を通じて改善を図っていきます。

切 な 支 援 の 提 供	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		担当制による企画体制を整備し、計画的なプログラム運営を実施しています。	必要に応じて見直しを行い、適切な運営体制を維持します。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節行事や社会体験活動などを取り入れ、多様な活動を計画・実施することで、児童生徒の経験の幅を広げるよう努めています。	今後も活動内容が固定化しないよう、定期的な検討と見直しを行っていきます。
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		学校・家庭との連携を踏まえ、個別支援と小集団支援を適切に組み合わせ実施しています。	引き続き関係機関連携の強化と適切な支援提供に努めます。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		役割分担を明確化し、職員間連携の円滑化を図っています。	共有体制の維持及びさらなる連携強化に努めます。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援後の振り返りおよび必要事項の速やかな共有を徹底しています。	相談・共有しやすい体制を維持し、継続的改善を図ります。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		各種記録を体系的に管理し、支援内容の把握および共有に活用しています。	非常勤職員も含めた記録周知の徹底を引き続き強化します。
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		適宜モニタリングを行い、計画の妥当性確認および見直しを実施しています。	経験年数に応じた丁寧な説明と周知徹底を図ります。
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○		「自立支援と日常生活の充実のための活動」「創作活動」「地域交流の機会の提供」「余暇の提供」を組み合わせた支援を実施しています。	評価結果を踏まえ、継続的な改善を行います。
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		自己選択・自己決定を尊重した支援を基本姿勢として徹底しています。	研修等を通じ理解促進を図り、継続して取り組みます。
	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		支援体制や状況を踏まえ、適切な職員が参加できるよう配慮しています。	引き続き状況に応じた参加体制の調整を行います。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保育園・学校・関係機関と密接に連携し、情報共有を行っています。	今後も連携体制の維持および強化に努めます。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校との連絡体制を整備し、年間計画や行事予定、当日の下校時刻等について適宜情報共有を行い、安全な送迎及び支援につなげています。	利便性と確実性の両立を図り、さらなる工夫を検討します。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		保護者の同意のもと、これまで利用していた関係機関からアセスメント情報や支援内容を共有し、児童理解および支援の継続性が図られるよう努めています。	課題を踏まえ、内容の充実を検討します。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		移行期の児童に対しては、関係機関と連携しながら、支援記録や取組状況等の必要な情報提供を行い、途切れのない支援につながるよう配慮しています。	引き続き適切な情報提供を継続します。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		児童発達支援センター等との情報交換を行い、必要に応じて助言や支援の方向性について確認できる体制を整えています。	保護者意向を尊重しつつ、引き続き適切な支援提供に努めます。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	△		子どもの特性や安全面に配慮しながら、地域資源や交流機会について個別に情報収集を行い、参加可能な活動の検討を行っています。	定期的・継続的な交流の機会は十分とは言えないため、今後は関係機関との調整を進め、無理のない形で交流機会の拡充を図っていきます。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	関係機関との連携の一環として、可能な範囲で協議会や会議への参加を行い、地域の支援体制や情報共有に努めています。	業務の都合上、参加できない場合もあるため、今後は参加体制の見直しや情報共有方法の工夫を行い、継続的な関与ができるよう検討します。
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳や面談等を通じて日常的に児童の状況を共有し、保護者と共に理解が図れるよう努めています。	今後も将来を見据えた支援体制の継続に努めます。
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		必要に応じて保護者へ支援に関する情報提供や相談対応を行い、家庭での関わりにもつながる支援を心がけています。	研修参加等を含め、連携強化に向けた検討を進めます。

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時等に重要事項の説明を行い、内容について理解が得られるよう丁寧な説明を心掛けています。	引き続き交流機会の拡大を図ります。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	アセスメントや面談等を通じて、児童および保護者の意向を把握し、最善の利益を考慮した計画作成に努めています。	今後も継続参加し情報共有を図ります。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	計画作成時に内容を説明し、理解と同意を得たうえで支援を実施しています。	適切な説明および迅速対応を継続します。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	日常的な相談に応じる体制を整え、必要に応じて面談や個別支援の調整を行っています。	引き続き分かりやすい情報提供に努めます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	△	保護者同士が情報を得やすいよう、必要に応じて情報提供や相談対応を行い、保護者の孤立防止に配慮しています。	保護者会や交流の場を定期的に設けるまでには至っていないため、今後は保護者ニーズを踏まえながら、交流の機会づくりについて検討していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	苦情対応窓口等を設け、受け付け体制および対応手順を整備しています。	引き続き体制強化を図ります。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	通信やホームページ等により事業内容や必要情報の発信を行っています。	引き続き情報の充実につとめます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	個人情報の管理について内部で共有し、適切な保管と取り扱いに努めています。	医師指示書等の取り扱いについても検討を進めます。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	児童や保護者の状況に応じた説明や配慮を心がけ、意思疎通が図れるよう努めています。	今後も意思の疎通や情報伝達の配慮に努めます。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	こどもの安全や特性を最優先に考え、地域との関わりについては個別に検討し、無理のない形での関係づくりを意識しています。	地域住民との交流機会は限定期的であるため、今後は行事内容や実施方法を工夫し、段階的に地域とのつながりを深めていくことが課題です。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	各種マニュアルを整備し、職員に周知するとともに、必要に応じて内容確認を行っています。	より分かりやすい表示方法の工夫を検討します。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	避難訓練等を計画的に実施し、非常時の対応体制の維持に努めています。	引き続き多様な災害対応訓練を実施します。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	利用開始時等に健康状況について確認し、必要事項を把握するよう努めています。	長時間行事時の再確認体制も引き続き徹底します。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	保護者からの申告内容をもとにに対応し、必要情報について職員間で共有しています。	指示書の直接取得の必要性について検討を進めます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	安全確保に関する研修や訓練を実施し、事故防止に努めています。	今後も継続実施していきます。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	必要に応じて安全に関する情報共有を行い、保護者と連携を図っています。	周知徹底のさらなる向上を図ります。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	ヒヤリハット事例について職員間で共有し、再発防止のための対応検討を行っています。	今後も継続します。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	虐待防止に関する研修を定期的に実施し、職員の理解促進および意識向上に努めています。研修では、実際に地域で起こった事例や過去の事例等も活用し、具体的な対応や予防の視点について共有しています。	今後も継続的に研修を実施し、虐待の未然防止に努めています。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	身体拘束に関する基本的考え方を説明し、必要に応じて計画に記載したうえで支援を行っています。	引き続き周知徹底を行います。